

# 小平市立上宿小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

この調査は全国の公立小学校6年生及び公立中学校3年生の学習状況を把握・分析し、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

●主として「知識」の力を見る国語A、算数A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技術などが中心の問題です。

●主として「活用」の力を見る国語B、算数B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容が中心の問題です。

●主として「知識」と「活用」の力を併せて見る理科

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

#### 課題

国語のAの正答率は全国平均より約7ポイント、都平均より11ポイント低い。

国語Bについては、全国平均より約9ポイント、都平均より約11ポイント低い。

全体的にAもBも正答率が低く、知識・活用ともに課題があることが分かった。

分析により、「情景描写を基に、人物の心情を捉える力」、「主語と述語の関係に気を付けて文章を書く力」、「自分の考えを明確にしながら読む力」、「文章全体の構成を考える力」を身に付けさせる指導が必要である。

### 学校で取り組む具体的な改善策

漢字学習の充実を図る。(同音異義語、熟語、短文作りなどの活用や家庭学習による習熟の徹底) 物語文の読解力を向上させる授業を展開していく。

(主語・述語に注意して読む、中心人物の心情変化の読み取り、読書推進など。)

自分の考えを表現する場を多く設定し、表現力の育成を図る。

(テーマに沿った内容を書く活動を取り入れる。)

## 【算数】

### 状況の分析

### 課題

算数の A の正答率は全国平均より約 7 ポイント低く、都平均より約 10 ポイント低かった。「数量関係」は都平均より 14 ポイント低かった。

算数 B は、全国平均より約 10 ポイント低く、都平均より約 13 ポイント低かった。「数と計算」は都平均より約 16 ポイント低かった。

それに対して、算数科が好きな児童は約 70% もいることが分かった。

知識・活用の両面で課題があることが分かった。

分析により、「数量関係の基本的な計算力を高めること」、「学んだ図形などの知識を身近なものに置き換えて比べたり、選んだ理由を考えたりする力」、「条件を変更して分配法則の式にする力」、「条件を変更して数量の関係を表現する力」を身に付けさせる指導が必要である。

### 学校で取り組む具体的な改善策

東京ベーシック・ドリルの取り組みを継続して行う。(基礎的・基本的な計算を繰り返し行う。) 習熟度別指導による、学力の底上げを行う。  
授業の中で、個人で考える時間やペア・グループで考えを深め合う時間を確保する。  
(活用する力を高める。)

## 【理科】

### 状況の分析

### 課題

理科の正答率は全国平均より約 7 ポイント低く、都平均より約 9 ポイント低かった。

理科の学習に興味・関心がある児童が約 70% いるが、全国平均より低く、13 ポイント低い。

分析により、「科学的な言葉や概念を理解する力」、「観察や妥当な考え方を考えるための実験方法を構想する力」、「実験結果から分かることを記述する力」を身に付けさせる指導が必要である。

### 学校で取り組む具体的な改善策

少人数グループによるグループワークを行い、実験方法について話し合う場を設ける。  
学習用具の充実と個人で考える時間を設定し、クラスで考えを深め合う時間を確保する。  
言葉だけでなく図や絵で表現する場を設定し、記述する力の育成を図る。

## 【質問紙】

### 状況の分析

### 課題

家庭での基本的な生活習慣やルールについては身に付いていて、全国平均と同程度である。

一方、

- ・ 平日の家庭学習 1 時間以上が約 50%
- ・ 読書時間 1 時間以上が約 20%
- ・ 新聞を読む児童が約 20%

であり、家庭学習や読書時間などについて改善が必要であることが分かった。

また、意見の発表が得意な児童が 50% 以上いることが分かったが、半数の児童に課題があることも分かった。

分析により、家庭学習の習慣があまり身に付いていないことが分かったので、定着させるために保護者会や学年便りなどで知らせる支援が必要である。

また、読書の時間が少なかったり、新聞を読む児童が少なかったりするので、積極的に図書館などを利用するよう働きかけるようにする。

加えて、意見の発表が得意な児童をさらに増やすために、児童の「共尊感情」を育む取り組みの継続を授業や特別活動で行い、地域と学校とで協力して育んでいけるようにする。

## 学校等で取り組む具体的な改善策

学年通信や保護者会等で、家庭学習や新聞、図書館利用について呼びかける。

学校図書館に、新聞を置いたり、読書を推進する取り組みを行ったりする。

大勢の前で意見を発表する前に少人数での話し合いで発表機会を設ける。

意見発表に対する教師の価値付け、児童同士の褒め合いや認め合いを積極的に行う。